



# くすりと健康

一般社団法人  
神戸市薬剤師会

## タバコと薬

皆さんは喫煙が薬の効き目に影響を与えるってご存知ですか？タバコの煙の中にはニコチンやタール、一酸化炭素のほか数千種類もの化学物質が含まれています。タバコの煙を吸い込むと肺や口腔以外にも気道や胃の粘膜などから化学物質が体に吸収され、そのうちの一部の化学物質がCYP1A2などの酵素の働きを活性化させます（これを薬物代謝酵素誘導といいます）。この酵素には薬を分解する作用があり、分解された薬はその効果を失うので、酵素が活性化すると薬が早く分解され、効き目が弱くなってしまいます。つまり、タバコを吸う人は吸わない人比べてより多くの量の薬を服用しないと同じ効き目にならないことになります。ただし、すべての薬で起こるわけではなく、この酵素で分解される薬に限られ、代表的なものに気

管支拡張薬、抗うつ薬、向精神薬、血圧降下薬、抗狭心症薬、抗血栓薬などがあります。

そのため、これらの薬を服用中の喫煙者が禁煙をすると、タバコのせいで弱くなっていた薬の効き目が正常に戻り、薬が効きすぎて思わぬ副作用が出てしまう可能性があります。もし、薬を服用中に禁煙を決定されたら必ず医師か薬剤師にお伝えください（途中で挫折して再び喫煙を始めた場合も伝えてください）。

このことは受動喫煙でも起こる可能性がありますがあるので、たとえば、周りのヘビースモーカーが禁煙したとか、職場の環境が禁煙や分煙に変わったなどの場合も医師か薬剤師にご相談ください。

薬物代謝酵素誘導以外でも、ニコチンには、中枢神経系の興奮と鎮静、心拍数増加、血圧上昇、末梢血管の収縮などの作用があり、一酸化炭素には血液の酸素運搬能力を低下させる作用があります。それら

の作用が薬の効果に影響を与えることがあり、たとえば、末梢血管が収縮することでインスリン注射の吸収が悪くなって血糖値が下がりにくくなったり、偏頭痛の薬の作用を強めたりすることがあります。また、心筋梗塞や脳梗塞などの副作用が出やすくなるため、35歳以上で1日15本以上タバコを吸う方は経口避妊薬を服用してはいけないことになっていきます。

このようにタバコは薬の効き目の影響を与えることがあります。薬を服用中の方でこれから禁煙（喫煙）を考慮しておられる方は、まず医師か薬剤師にご相談ください。また、禁煙を補助するための薬（ニコチンガム、ニコチンパッチ）も薬局で買うことができませんし、健康保険が利く薬（禁煙外来）もありますので、詳しくは医師か薬剤師にお尋ねください。

（北区 薬局エヒラファーマシー

松本 博志）